

## アナログプレイヤーの比較試聴(29)

### —モーツアルトを聴く(29)—

#### 1. 始めに

前報(28)に引き続き、アナログプレイヤー3機種 of 比較試聴を実施していきます。

#### 2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種 of 試聴経路は、ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した前報(18)と同様です。

音源は、モーツアルト of アナログ盤を使用していきますが、今回はピアノ協奏曲です。

ドイツグラモフォン MG-1038

モーツアルト ピアノ協奏曲第 23 番イ長調

ピアノ協奏曲第 19 番へ長調

マウリチオ・ポリーニ (ピアノ)

カール・ベーム指揮ウイーンフィル

ドイツグラモフォン UCJG-9008

モーツアルト ピアノ協奏曲第 23 番イ長調

ピアノ協奏曲第 19 番へ長調

マウリチオ・ポリーニ (ピアノ)

カール・ベーム指揮ウイーンフィル

今回も、各プレイヤーにターンテーブルアキュライザーTACU-1 を使用していきます。また、LINN LP-12 の再生系では、ダンパーフレークの導入(1)で報告したダンパーフレークを 2 ケ所に適用しています。さらに、ダンパーフレークの導入(3)で報告した TruPhase から 300B アンプに介在させたバランスアナログアキュライザーの出力側へのダンパーフレークを適用しています。

#### 3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

いずれも ZANDEN Model120 経由の LINN LP-12 と ThorensTD124 では、TELDEC、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

両盤ともマスターが同一のようで、装丁から判断すると MG-1038 の方が古いものようです。

ドイツグラモフォン MG-1038 盤の ThorensTD124 では、ベーム指揮ウイーンフィルの流麗なオーケストレーションの豊かな響きをバックに、若いポリーニのピアノが美しく歌い上げます。

LINN LP-12 では、ウイーンフィルとポリニーのピアノの美しい響きは ThorensTD124 と同様ですが、繊細でディテールの再現に優れています。

Grrad401 では、ディテールの再現では劣りますが、響きが豊かで勢いのある再生ぶりです。

ドイツグラモフォン UCJG-9008 盤でも基本的な印象は、上記ドイツグラモフォン MG-1038 盤の印象と変わりませんが、ThorensTD124 では、豊かな響きが後退し、逆に細かい表情が良くでるようになっていきます。

LINN LP-12 では、上記ドイツグラモフォン MG-1038 盤の印象と変わりませんが、響きの美しさが際立っています。

Grrad401 では、UCJG-9008 盤でも基本的な印象は、上記ドイツグラモフォン MG-1038 盤の印象と変わりませんが、響きが豊かで勢いのある再生ぶりは後退し、逆に大人し目の細かい表情が良くでるようになっていきます。

#### 4. まとめ

ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した結果も、3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、流麗な響き、繊細な表現、勢いのある再生ぶりなどの特徴が出ています。MG-1038 盤と UCJG-9008 盤ではカットイングアンプの違いがあるようで、同じマスターでも盤のカットイングの違いが、アナログシステムとの組み合わせで、少しずつニュアンスの違いがでてくることが分りました。

以上